

令和元年度 山梨県果樹試験場試験研究課題評価結果

1 評価委員名

中村 ゆり (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門 企画管理部長)

田村 仁 (山梨県果樹園芸会 会長)

鈴木 忠 (日本園芸農業協同組合連合会 専務理事)

奥田 徹 (山梨大学大学院 総合研究部附属ワイン科学研究センター長)

森谷 修 (南アルプス市農業協同組合 技術顧問)

2 評価実施日

第1回課題評価委員会 (再編・事前・中間) 令和元年8月23日

第2回課題評価委員会 (中間・事後) 令和2年1月24日

3 評価課題

(1) 再編評価課題

大課題名：醸造用ブドウ新品種の育成 (S25～)

⇒ { 大課題名：醸造用ブドウ新品種の育成 (S25～)
大課題名：醸造用ブドウ品種・系統の選抜 (R2年～)

(2) 事前評価課題

ア) 大課題名：醸造用ブドウ品種・系統の選抜 (R2年～)

小課題名：山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造用品種の選抜
～果実特性の解明～ (成長戦略研究：R2～4)

イ) 大課題名：ブドウ園土壌における可給態窒素診断基準の作成
(成長戦略研究：R2～4)

(3) 中間評価課題

ア) 大課題名：生食用ブドウ新品種の育成 (H16～)

小課題名：1. 着色系オリジナル品種の育成 (H29～R8、内重点化研究 H29～R3)

小課題名：2. ベト病抵抗性品種の育成

小課題名：3. 系統適応性検定試験 (生食用)

イ) 大課題名：加温栽培ブドウ「シャインマスカット」の
高品質安定生産技術の開発 (H29～R3)

(4) 事後評価課題

ア) 大課題名：県産赤ワイン用原料ブドウの地域別特性把握 (最重点化研究 H29～R1)

イ) 大課題名：ブドウのクワコナカイガラムシ防除の効率化 (重点化研究 H29～R1)

4 具体的な評価点、総合コメント

(評価点の目安)

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

再編(中間)評価報告書

果樹試験場評価委員会 令和元年8月23日(金)

研究種別	一般	
研究課題名	○旧大課題名:醸造用ブドウ新品種の育成(S25~) ↳ ○大課題名:再 醸造用ブドウ新品種の育成(S25~) ○大課題名:再 醸造用ブドウ品種・系統の選抜(R2年~)	
研究期間	平成28年度 ~ 平成30年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	3.8
[コメント] 新品種の育成に向け、研究開発が計画どおり進行している。甲州の系統選抜は、すでに普及段階に入っており、実用性の高い成果が出ている。新たに耐病性品種育成を主軸とした課題として再編が行われているが、県内ワイナリーの要望を踏まえた計画変更であり妥当である。耐病性品種育成は時間もかかり地道な研究積み重ねが必要と思われるが、成果に寄せる期待度は高い。		

事前評価報告書

果樹試験所評価委員会

令和元年8月23日(金)

研究種別	重点化課題候補	
研究課題名	山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造用品種の選抜 ～果実特性の解明～	
研究期間	令和2年度 ～ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	3.6
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.2
	総合評点	3.8
[コメント] 昨今の激しい気象環境の中で県内で安心して栽培できる品種・系統の特定は県のワイン産業発展のため重要であり、研究の必要性は高い。既に県内のワイナリーが導入済みの品種の中から要望の高いものを選抜し、その試験樹の準備もできている。研究終了時には、これら品種の栽培特性・果実特性が明らかになり、その情報は速やかに現地で活用されると期待できる。入手できる欧州系品種に制約があるので難しいが、可能であればさらに幅広い品種から選抜を行い、真に山梨県のフラッグシップとなるような醸造用品種の選定を期待する。		

事前評価報告書

果樹試験所評価委員会

令和元年8月23日(金)

研究種別	重点化課題候補	
研究課題名	ブドウ園土壌における可給態窒素診断基準の作成	
研究期間	令和2年度 ~ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.6
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.6
	総合評点	4.1
[コメント] ブドウ園の土壌診断において、指標が明確になっていない可給態窒素の診断基準の作成は重要であり、研究の必要性は極めて高い。新たに開発された簡易な手法を用いることで多数の園地での調査が可能となり、県内のブドウ圃場の可給態窒素量の実態を広く把握することで、現地の条件に合わせた診断基準の作成ができるものと期待される。本研究では、シャインマスカットと巨峰を対象とした計画となっているが、将来的には、他の品種や、モモ、スモモ等の他の樹種の施肥基準の作成も視野に研究を進めていただきたい。		

中間評価報告書

果樹試験場評価委員会

令和元年8月23日(金)

研究種別	一般(重点化研究含む)	
研究課題名	大課題名:生食用ブドウ新品種の育成(H16~) 1.着色系オリジナル品種の育成(H29~R8)重点化(H29~R3) 2.べと病抵抗性品種の育成 3.系統適応性検定試験(生食用)	
研究期間	平成29年度 ~ 令和3年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.4
[コメント] 育成すべき品種の目標も明確にされており、その目標に向け順調に研究が進んでいると評価できる。山梨7号が品種登録予定であり、全国的にも赤系シャインマスカットが注目されるなかでの県オリジナル品種として普及が期待できる。普及にあたっては、栽培指針の提示も併せてお願いしたい。また、県内限定のため生産量が限られることから、認知度を高めるために販売期間の拡大が必要である。そのため、施設栽培での検証や対策も示して頂きたい。		

中間評価報告書

果樹試験場評価委員会 令和2年1月24日(金)

研究種別	一般課題	
研究課題名	加温栽培ブドウ「シャインマスカット」の高品質安定生産技術の開発	
研究期間	平成29年度～令和3年度	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.4
<p>ハウス栽培の「シャインマスカット」において、生理障害の発生が少なく樹勢を保持できる台木としてイブリフランを選定した成果は高く評価できる。既に生産者への配布のために当該台木の増殖を開始しており、普及に向けた取り組みも着実に実施している。今後は関係する団体と連携して、安定した苗木供給を実施していただきたい。令和3年度までの試験期間で、残る課題である低糖度果の対策技術の開発について研究を推進し、シャインマスカットの加温ハウス栽培の高品質安定生産が可能となる栽培体系・加温体系の確立に繋げていただきたい。</p>		

事後評価報告書

果樹試験場 評価委員会 令和2年1月24日(金)

研究種別	最重点化課題	
研究課題名	県産赤ワイン用原料ブドウの地域別特性把握	
研究期間	平成29年度 ~ 令和元年度	
		平均点
1	研究目標の達成度	3.8
[コメント] マスカット・ベリーAとカベルネ・ソービニオンについて、栽培地域の気候・土壌条件毎の赤ワイン特性が明らかになり、ワインスタイルが提示できたことで当面の目標は達成されたものといえる。この研究成果は各ワイナリーにおける製品PRに活用される見込みとのことであるが、活用にあたっては、ワイン原料用ブドウの地域別・産地別のランク付けにつながらないような配慮が必要である。		

事後評価報告書

果樹試験場 評価委員会 令和2年1月24日(金)

研究種別	重点化課題	
研究課題名	ブドウのクワコナカイガラムシ防除の効率化	
研究期間	平成29年度 ~ 令和元年度	
		平均点
1	研究目標の達成度	4.8
[コメント] 生産現場で長年問題となっていたブドウのクワコナカイガラムシの発生消長を明らかにし、ジノテフランの樹幹塗布剤処理の適期や薬害がでない適切な使用方法等を詳細に検討し、防除体系として明確に示したことは、極めて高く評価できる。さらに、この防除体系を県の病害虫防除暦に反映させるなど、生産者に対する普及方策も明確であり、高く評価できる。		